

# 社会福祉法人中央会 令和5年度事業報告

## 【施設方針】

施設理念 「家のぬくもり、家族のつながり、地域のつながりのある暮らし」  
の実現に取り組む。

### 1. 令和6年能登半島地震

1月1日に発生した能登半島地震は、石川県を中心に大きな被害をもたらした。ピーク時は約3000人余りが孤立状態となり、その後は大きく減少したものの5つの地区の26人が孤立状態と聞いている。当施設でも1月2日に「福祉避難所」として能登からの被災者を受け入れた。当初は受け入れのマッチング機能である県ケアマネ協会からの情報が錯綜し、対応の遅れに被災者の方々の安否に不安を感じていたが、直接家族からの問い合わせもあり、結果的に直接家族とのやり取りの方がスムーズに受け入れすることが出来た。また、自衛隊の車で輪島から来られた方も居られたが、市内の避難所へはこちらから迎えに行っており、ご家族と顔を会わすことでお互いに安心感を得ることが出来た。

現在は被災された5人のうち1名はケアハウスに入所され、1名は珠洲の入所先施設が復興し戻られた。あとの方は入院が1名、そのまま特養入所に至った方が1名、もう一人の方はまだ福祉避難所として利用されている。

### 2. 新型コロナウイルス感染対策

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、2023年5月8日より「5類」に移行となった。しかし、高齢者施設においては感染による重篤化が深刻な問題となっており、季節性インフルエンザも合わせて感染予防として看護師を中心とした感染委員によるラウンドを行い、介護職員へ実地指導を行った。また、「感染者及び濃厚接触者聞き取りシート」から情報収集し迅速に対策を講じ、施設内職員間での情報共有に努めた。石川県から高齢者施設等従業者と入居者様に新型コロナウイルス抗原定性検査キット支給があり施設で検査が実施出来たこと、コロナワクチン接種とインフルエンザワクチン接種が優先的に実施出来た事が予防につながったと考える。

### 3. 施設の感染状況

昨年6月にグループホーム式番館において、職員によるコロナウイルス持ち込

みが原因で、入居者様や職員に感染が広まりクラスターが発生した。金沢市保健所の指導のもと、感染対策を見直し重篤者を出すことは無く、特別養護老人ホームの入居者様やその他の施設内感染に至ることは無かった。また、ショートステイやデイサービスでコロナ感染した利用者様もいたが、昨年度と比べ件数は減り、蔓延までには至らなかった。

#### 4. ウイズコロナの施設運営

面会については、職員が同席しパブリックスペースでの面会を実施。今年の4月から面会ルールは変更せず、自室内での面会を再開したことで、入居者様・ご家族様に喜んで頂いている。また、昨年秋に特別養護老人ホームの家族懇親会を開催し、ユニット内をライブでのビデオ上映を行ったところ、日常の様子がうかがえ安心したと大変喜ばれた。

地域との交流は今年度予定していた米泉町の子供神輿が雨天のため中止にはなだったが、伏見高校の学生は小規模多機能で体験学習を実施することが出来た。ボランティア交流については直接利用者様との接触は避け、今年の5月から再開を予定している。また、施設内のレクリエーションや行事は昨年引き続き季節に応じた内容で開催し、外出レクリエーションはドライブや伏見川沿いのお花見散策を楽しまれた。

#### 5. 職員育成

今年度は重点研修として食事の介助方法について学んだ。5回にわたり当施設の看護師が講師となりビデオ研修の後、実践を交えての指導を行った。食事介助時の姿勢や食材の形態など注意する視点を改めて学ぶことで、誤嚥防止に努め安全に食べて頂くことが出来た。職員からは「食事介助の方法一つでソフト食にすることなく、今までの食事を継続することが出来た」「ポジショニングの大切さが分かった」など 好評を得ることが出来た。

#### 6. 職員の採用と定着

令和5年度は特にグループホームでの退職者が続き、結果的に派遣職員が8名に増えることとなった。新卒者はいなかったが、中途採用に5名が入職され、その内4名が安定して働いてもらっている。現在の雇用者数は95名、平均年齢は依然として40台後半ではあるが、体力に応じて働いていただいている。今年度は新卒者が5名入職し、転勤等で退職された方も復帰を予定している。また、2名の方が育児休暇を取得され、今秋には復帰を控えている。

## 7. 看取りの取り組み

特別養護老人ホームの退居者は12名、新しい入居者が12名と入れ替わりが多かった。退居者のうち看取り退居が3名居られ、そのうち1名のご家族様は遠方より面会に来られており「生きている間に顔を見ることが出来て良かった」と感謝の言葉を頂いている。グループホームにおいては双方ともに看取り退居の方はいなかった。

## 8. 経営基盤の強化と確立

### (1) 令和5年度目標達成状況

特別養護老人ホーム、ショートステイ・グループホーム、グループホーム式番館は令和5年度稼働率目標を達成する。小規模多機能は目標に至らなかった。

#### 【令和5年度稼働率】

事業所	令和5年度目標	結果
特養	97%	97.2%
ショート	98%	101.0%
グループホーム	97%	98.3%
グループホーム式番館	97%	98.5%
小規模多機能	88%	70.5%
デイサービス	76%	75.3%

デイサービスは目標達成とはいかなかったが、前年に比べ延べ人数698人増え、要介護者においては前年比1060人増えている。新規獲得に向け営業や個別での機能訓練、マッサージを充実する事で利用者拡大につながった。小規模多機能の不振は、入院や施設入所が重なり、新規獲得に及ばず稼働率の低下を招いた。

### (2) 人件費について

前年度に比べ、退職給付支出を除くと増額となり、人件費率も1.1%増加した。令和6年度は新規採用として5名入職しており、派遣職員を減らす方向でいる。

行政より介護職員等の賃金改善を目的として頂いている処遇改善加算の支給額が今年度も約560万円あり、人員の入れ替えと共に給与のベースアップを図ることができた。

### (3) 事業費について

前年度に比べ、約370万円の増額となった。特に令和3年以降光熱費は高騰し前年度も約75万円増額となった。行政より「物価高騰対策支援事業」として合わせて約600万円の補助金を受給したことで補填は出来た。給食費においても食材費高騰から約180万円の増額となり、「物価高騰緊急対策福祉施設等食材料費補

助金」として遅れて約73万円の支給が予定されている。

(4) 事務費について

前年度に比べ約86万円増額となった。原因として、給食委託会社メフォスが9月から約15万/月(105万)の値上げと、本館のワックスがけ・窓清掃を行った。また、ホームページとポスターを新しく作り変えた事で約46万円の支出があった。一方、修理が困難で買い替えが必要な備品が増えていることから修繕費としては減っている。

(5) 資産管理について

デイサービスの送迎車として車を1台買い替えた。電化製品等の買い替えの時期が来ており、グループホームに冷蔵庫1台購入、特別養護老人ホームで使用しているストレッチャー浴のモーター交換も行った。また、居室エアコンも特養1台、ショートステイ3台の計4台買い換えている。その他、小規模多機能のパソコン1台を購入している。今年度はICTの導入も検討しており、助成金や補助金の活用を積極的に図っていく。

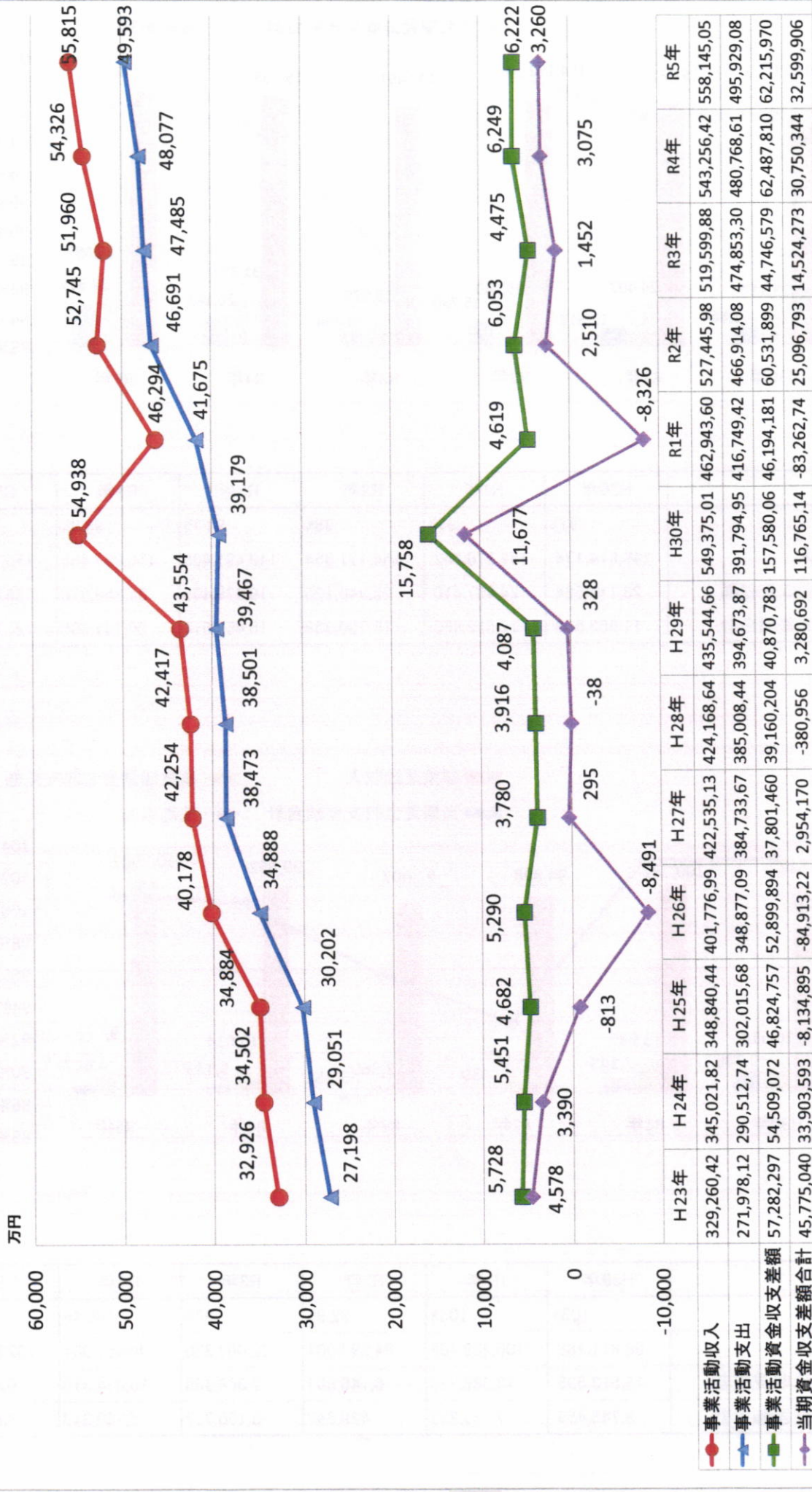
(6) 財務管理について

令和5年度は、約2,380万円(利息分含む)を返済した。昨年度より約75万円減額になっているが、令和6年3月返済曜日の関係で翌月に繰り越しとなったためである。令和6年度はその分が上乘せとなり、約2500万円(利息分含む)を予定している。

(7) 資金収支活動の推移と報告(全体・事業所別)

次ページのグラフ参照

(7) 資金収支活動の推移と報告 (全体)

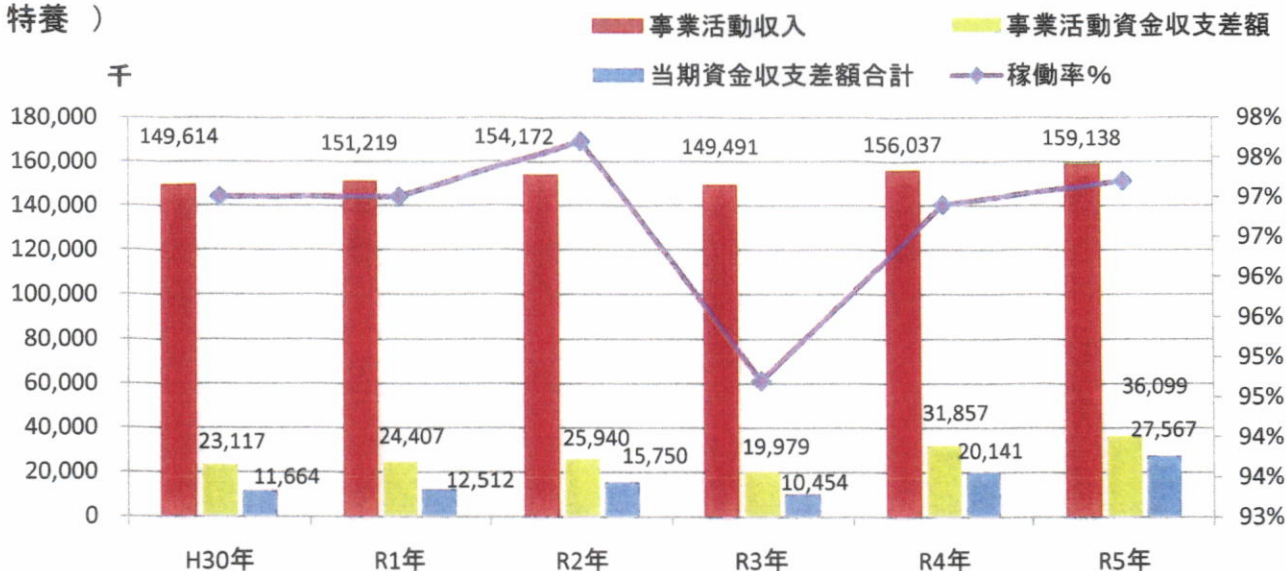


令和5年度収支報告

- ・事業活動収入は558,145,058円で前年度より14,888,635円増収だった。小規模多機能以外の事業所サービスにおいて、前年度よりも介護保険収入が増えた。
- ・事業活動支出は495,929,088円だった。15,160,475円支出増だった。
- ・人件費率67.1%で、前年度の人件費率66%より、1.1%増となったが、今年度5人が正規雇用となり派遣社員を減らしていく。
- ・事業活動資金収支差額は62,215,970円で前年度より271,840円減収だった。
- ・当期資金収支差額合計は32,599,906円で、前年度より1,849,562円増収だった。

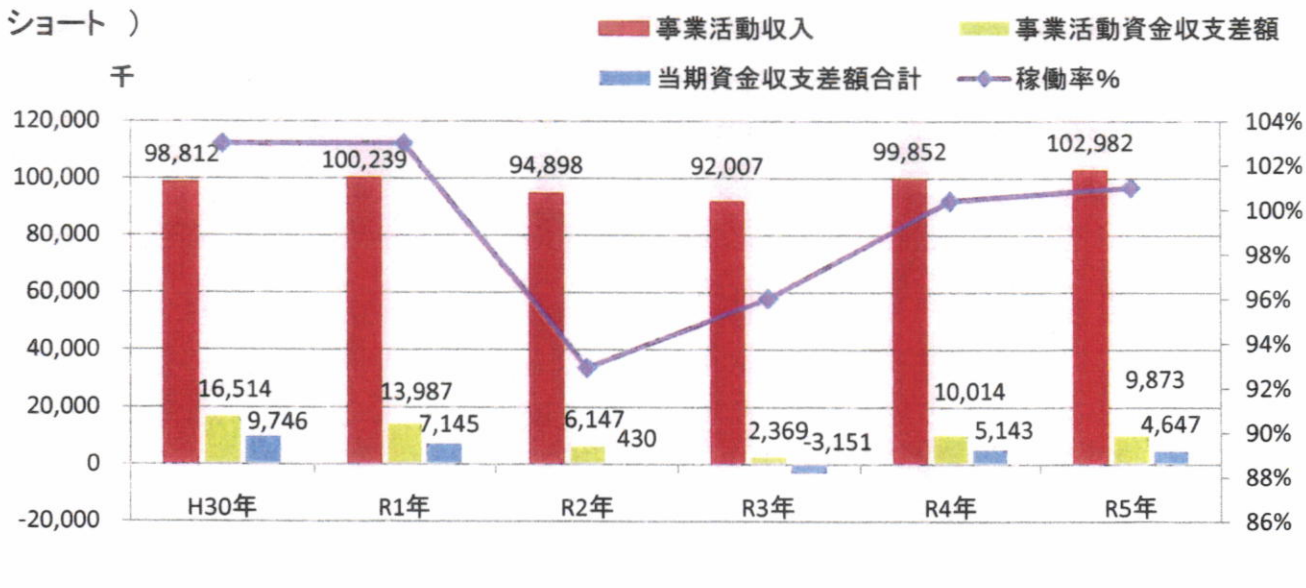
(7) 資金収支活動の推移と報告(事業所別)

( 特養 )



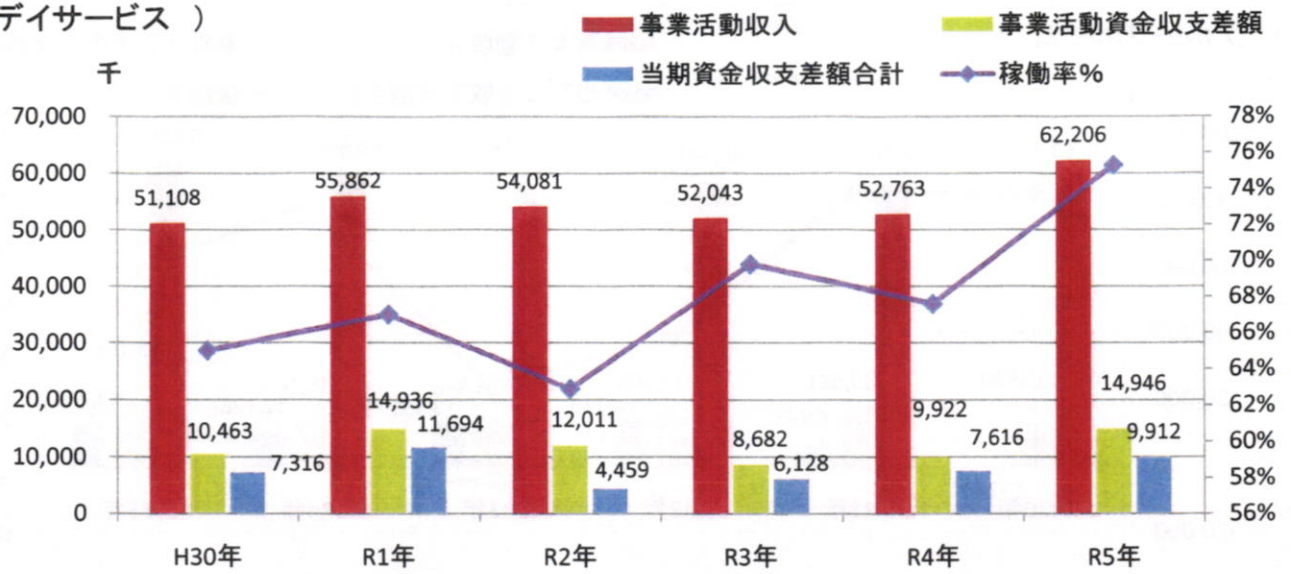
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
稼働率%	97%	97%	98%	94.7%	96.9%	97.2%
事業活動収入	149,614,174	151,218,562	154,171,854	149,491,466	156,037,485	159,137,509
事業活動資金収支差額	23,116,524	24,407,410	25,940,125	19,979,405	31,856,616	36,098,832
当期資金収支差額合計	11,663,563	12,512,460	15,750,359	10,453,614	20,141,365	27,567,303

( ショート )



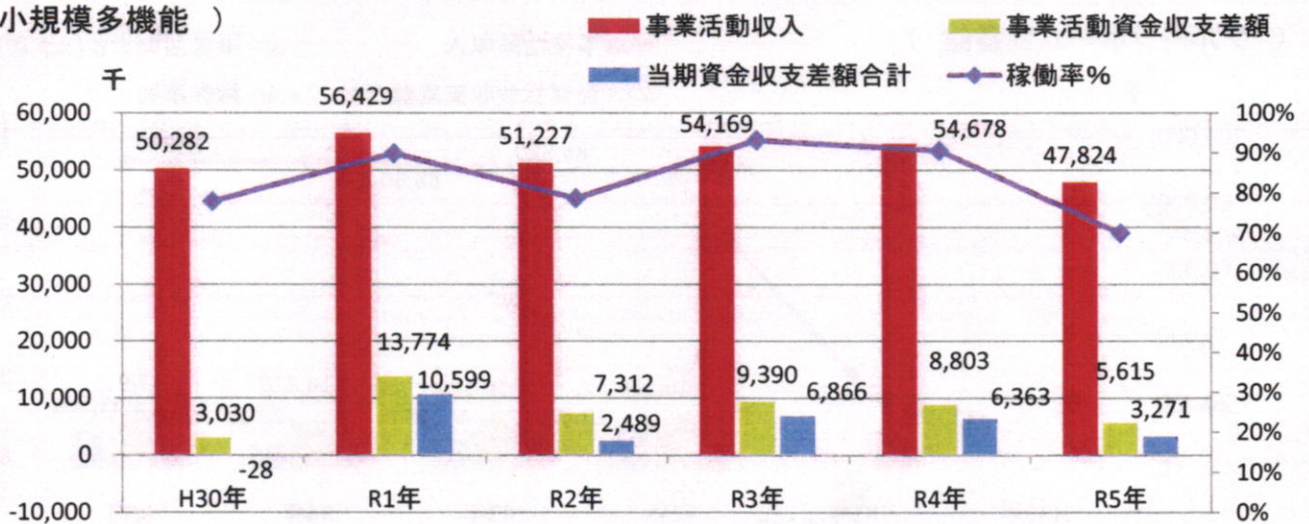
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
稼働率%	103%	103%	92.9%	96%	100.4%	101.0%
事業活動収入	98,811,788	100,239,468	94,897,901	92,007,320	99,851,981	102,981,993
事業活動資金収支差額	16,513,535	13,986,718	6,146,597	2,368,968	10,014,318	9,873,145
当期資金収支差額合計	9,746,459	7,145,253	429,647	-3,150,757	5,143,343	4,646,738

( デイサービス )



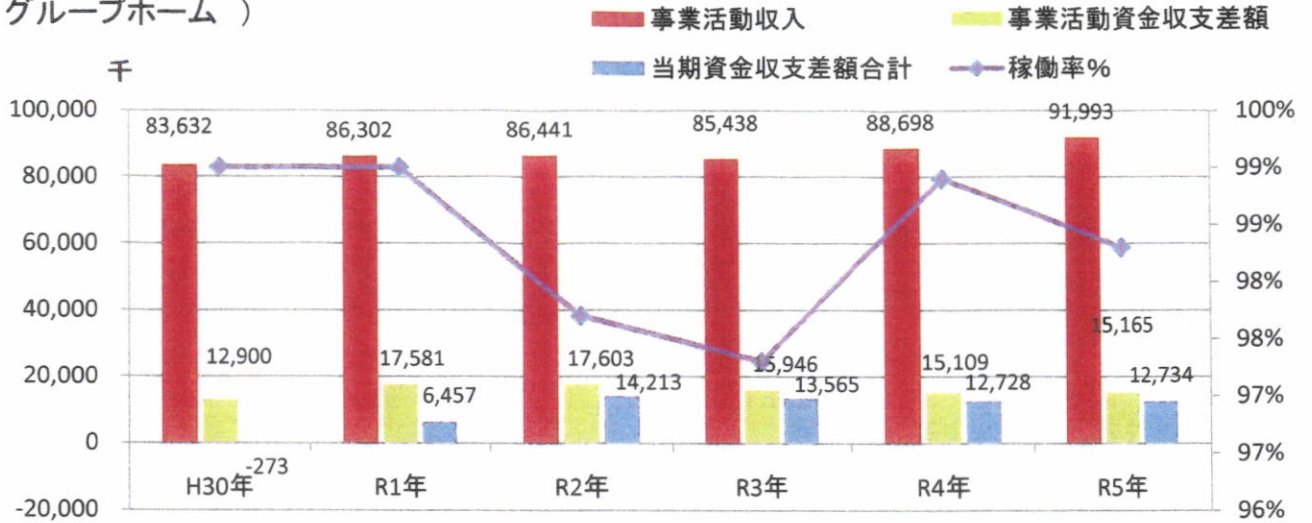
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
稼働率%	65%	67%	62.9%	69.8%	67.6%	75.3%
事業活動収入	51,107,965	55,861,562	54,080,553	52,042,696	52,763,255	62,205,638
事業活動資金収支差額	10,462,771	14,935,702	12,010,639	8,681,872	9,921,840	14,946,469
当期資金収支差額合計	7,315,873	11,693,720	4,458,850	6,128,198	7,615,966	9,912,426

( 小規模多機能 )



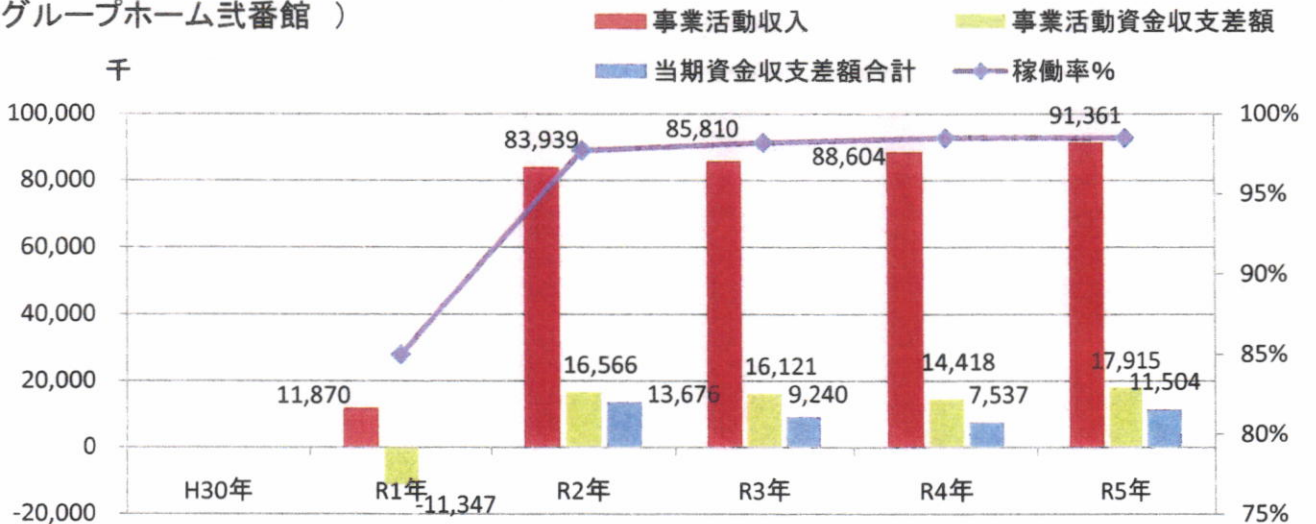
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
稼働率%	78%	90%	78.7%	93.3%	91%	70%
事業活動収入	50,281,517	56,428,762	51,227,482	54,169,437	54,677,804	47,824,494
事業活動資金収支差額	3,030,001	13,773,740	7,312,360	9,389,639	8,802,867	5,614,738
当期資金収支差額合計	-28,298	10,598,637	2,489,410	6,865,714	6,362,642	3,271,027

( グループホーム )



	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
稼働率%	99%	99%	97.7%	97.3%	98.9%	98.3%
事業活動収入	83,632,059	86,301,969	86,441,320	85,438,343	88,697,737	91,993,364
事業活動資金収支差額	12,899,542	17,580,834	17,603,004	15,946,463	15,108,939	15,165,074
当期資金収支差額合計	-272,542	6,457,335	14,213,142	13,565,271	12,727,747	12,734,450

( グループホーム式番館 )



	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
稼働率%		85%	97.7%	98.2%	98.5%	98.5%
事業活動収入		11,869,992	83,939,446	85,810,492	88,604,294	91,361,183
事業活動資金収支差額		-11,347,435	16,566,144	16,121,175	14,417,700	17,914,813
当期資金収支差額合計		-111,834,526	13,676,282	9,239,983	7,536,508	11,503,919



## 9. 令和5年度の事業所評価

### 特別養護老人ホーム

#### (1) 『笑顔』と『正しい言葉づかい』で接遇力アップ

- ・ 「です・ます」を付けず、言葉が崩れてしまうことがあった
- ・ 意識して実施出来た
- ・ 笑顔で利用者様と関わりが持てた
- ・ 他の職員に対する指摘までは出来なかった

#### (2) 個々の生活に特化した看取りケア

～その人なりのオンリーワンの看取りケア～

- ・ 情報収集を行いユニット内で相談して、その人らしさを考えることができた
- ・ どんなケアをすることがオンリーワンに繋がるだろうかという視点を持ち、日々のケアに当たることができた
- ・ ご家族にも入居者様の趣味嗜好を確認しながら、その人にあった看取りケアができた
- ・ もっと何か出来たのではないか？と思う看取りもあり、普段から何が出来るか考えていきたい
- ・ 日々のケアから本人の思いを出来る限り尊重し、安楽な状態を第一に考えたケアが出来た

#### (3) 感染症を持ち込まない拡大させない

～細心の注意で安心して生活できる暮らしを～

- ・ 基本的な感染対策、日々の体調管理が出来た
- ・ 感染対策を考えながら行動出来た
- ・ 家族が感染した際にしっかりと対策をとり、施設内に持ち込まずに済んだ
- ・ 入居者様をひとりも感染させることが無かったため達成できた
- ・ スタンダードプリコーションを意識し、対応することが出来た

### ショートステイ

#### (1) 接遇「です・ます」の徹底と声のトーン、表情に気をつける

- ・ 身体拘束委員から発信した日々の振り返りにより、以前よりは意識しながら取り組むことが出来た
- ・ 声のトーンに関して気をつけることが出来た
- ・ 会話時間が長くなると馴れ馴れしい口調になることがあった
- ・ 忙しく慌ただしい時には「です・ます」を忘れ口調が荒くなる時や、早口になることがあった
- ・ マスクを装着しているため、口角を挙げていない時があった

#### (2) 報・連・相を忘れず利用者様、家族様に満足していただける様な、統一したケアを目指す（忘れ物を減らす）

- ・ 日々変化するため「報連相」をしっかりと行い、統一したケアを意識し実行
  - ・ 「報連相」が十分に出来ておらず、物忘れやケアの抜けを利用者様やご家族から苦情としてご指摘を受けることがあった
- (3) 日々変化への対応が出来るようチームでの検討、ケアプランの把握、ケース入力確認を怠らない
- ・ ケース、ケアプランの確認をしてから業務に入ることを意識した
  - ・ 日々変化について話し合い、検討を重ね統一したケアを目指した
  - ・ 変化に対してのケース入力はきちんと行った
  - ・ 日々変化するケースの確認が追い付かず確認不足が見られた
  - ・ 確認できない時には職員間で口頭での確認を行った
  - ・ 日々利用者様のケアプランを全て把握することが出来なかった

#### グループホーム

- (1) 入居者様一人ひとりの思いを大切にし、満足していただけるケアを目指す
- ・ 職員全員が入居者一人ひとりの思いを尊重し、利用者の言動・行動を受け入れることは難しかった
  - ・ 職員の中には「何故、そのような行動を取るのか」「どうすれば、不安を取り除くことができるのか」を考え職員間で話し合う事が出来た
- (2) 目の前の状態だけにとらわれず、入居者様個々の背景を知る努力をする
- ・ 職員から積極的に関わりを持つことが出来た
  - ・ コミュニケーションを通じて、過去の出来事や若い時のこと、家族のことなど情報収集に努めた
- (2) 職員間の風通しを良くし、何事もプラス思考で行い、笑顔を大切にする
- ・ 職員間同士での言葉遣いやプラス思考で仕事をする事が出来ない時があった
  - ・ 笑顔で仕事をする事を忘れる時があった
  - ・ コロナ等で職員不足の時など、ゆとりを持つことが出来なかった

#### グループホーム式番館

- (1) 入居者様の行動には意味があると考え、その時のその方の気持ちになり対応していく
- ・ 行動の意味、その思いや習慣など環境因子を考え対応することが出来た
  - ・ 行動を否定せず、改善し事故の回避や安全に過ごして頂くよう努めた
- (2) 職員一人ひとりがグループホームを一体と考え、チームワークを徹底する
- ・ 2つのユニット間の連携は少なかった
  - ・ ユニット間の情報共有が出来ていなかった
  - ・ 「前にもそんな事があった」「やっぱりそう思ってた」などの言動から、自分事と捉えていなかった
  - ・ 自分事と捉え、積極的に発言や提案をしていきたい

## 小規模多機能

- (1) 利用者様一人ひとりの楽しみを作り、笑顔で迎え、笑顔で帰宅して頂く
  - ・ 毎日、笑顔で迎え、送迎時やフロアでの様子から小さな変化や気づきに心がけることが出来た
  - ・ 一部の利用者から「今日も楽しかったわ」と言っていた
  - ・ 趣味や楽しみを持っている方への配慮や声かけは出来ていたが、思いを伝えられない方や会話が難しい方への配慮が足りなかった
- (2) 毎日変化する利用者様の様子・ケア内容を職員間で共有し、自信を持って技術と知識・知恵を組み合わせたケアを行う
  - ・ 毎日のミーティングや申し送り・申し送りノート・記録等で情報共有を図っているが、個人のうっかりで抜けることがあった
  - ・ 自己流でなく、共有したケアや技術を目指したい
- (3) 利用者へのケアの統一を目指し、サービス・ケアの内容、情報・状態を漏れなく記録に残す
  - ・ 毎日の変化が無い方のケースが少なかった
  - ・ ケアプランに沿ったケアを実施することが少なく、記録に残せなかった
  - ・ 情報・状態を完璧に記録に残すことが出来なかった

## デイサービス

- (1) ケアプランに沿った個別ケアに取り組む
  - ・ 認知症加算算定対象者や個別機能訓練加算対象者について特に意識し、個別ケアに取り組み、他職員にも周知しケース記録に残すことが出来た
  - ・ ケアプランやそれに基づく計画書に沿って毎月の評価を行っているため、担当利用者様については把握し実行出来たが、担当以外の利用者様においては把握しきれず、難しい面もあった
  - ・ 利用者の好みや適正に応じた個別レクを提供して反応を確認しながら記録に残すことで、他職員と共有し実行出来た
- (2) 日々の丁寧な接遇・ケアを目指す
  - ・ 月々の目標を立て意識できたが、朝礼での発表は実際行ってみると時間がかかったため、朝礼での発表は中止した
  - ・ 馴れ合い言葉が出てしまったときは、職員同士が注意しあう場面もあった
  - ・ 明るい雰囲気や笑顔で接遇することに意識し実行出来た
- (3) 明るい笑顔と、細やかなケアで新規獲得に努める
  - ・ 事前に情報確認し、朝礼で注意事項など共有出来た
  - ・ お試し利用時には、あんまマッサージのサービスやホットパック等リラクゼーションやその方に応じたレクの提供に努めた

## 看護部

- (1) 入居者様の日々の健康観察や健康管理に努め、病状の悪化を防ぐ
  - ・ 入居者の高齢化が進み、医療度の高い入居者の受入れが多くなり、発熱など状態悪化により受診や入院することが多く、病院と連携し対応することが出来たが、今後もその傾向は変わらないと思われる
- (2) 感染対策および褥瘡予防対策においてリーダー敵役割をしていく
  - ・ 感染対策では、マニュアル内容を見直し、当施設にあったものと差し替え、感染認定看護師の研修やラウンドを受け、更に内容を見直した。環境調整については環境委員会とも協力して改善していくことになった。研修会では、感染・褥瘡とも実技に取り入れ、実践的な研修会を開催した
- (3) 業務分担の明確化と効率化を図る
  - ・ 業務分担の見直しを行い、役割や効率化を考えて分担や方法を変更しているが、まだ改善の必要性がある

## 栄養部

- (1) 利用者様の状態や要望を把握し、多職種と連携を取り最適な食支援を行う
  - ・ 多職種と相談し合える関係で良好。食事変更や看取りのタイミングなど、多職種で相談出来ており、適切な食支援が出来ていると思う。今後も継続していきたい
- (2) 食事が楽しみになるメニュー提案と、五感で楽しむ食事の提供に努める
  - ・ 今年度は特に、嗜好調査の結果を基に、嗜好を献立に反映させることを意識してメニュー提案・提供を行いました。近年の食材費の高騰により、今年度より食単価の値上げも承諾頂けた為、メニューやおやつ幅も広がり、より利用者様の嗜好に沿った提供が出来ているように感じている。これからも、利用者様の声を柔軟に取り入れたメニュー提供をしていきたい
  - ・ セレクトのマンネリ化や偏り、選びにくさがあったが、今年度は写真でセレクトできるようにし、分かり易いメニュー提案ができていた。目立った偏りも見られなかった。
- (3) 食中毒や感染症への対策を強化し、安心安全な食事の提供をする
  - ・ 食中毒はゼロ。感染症も、栄養部内でノロやコロナ、インフルエンザ等発症あるも、早期の報告や対応にて、広まらずに食事の提供が出来て良かった。安心・安全面では、異物混入の事故が3件（箸の先、虫、骨）あったため、事故ゼロを目指したい。報告・連絡・相談・確認を強化し、対策していく。
  - ・ 人手不足の中で、声をかけあい、協力しながら、やりくりできていた
  - ・ 細かいミス（皿の枚数等）があった。ダブルチェックでなくしていきたい
  - ・ 食数の変動多く、盛り付けが少ないと指摘を受ける事があった。食材量の見直しを行い、日々調整していきたい

事務

- (1) 他部署との連携を強化し、事務からもより良い提案を行えるよう意識する
  - ・ 毎週の朝礼を行うことで情報共有の習慣が身についた  
朝礼ができないときも各自毎朝予定表と連絡ノートを確認することにより適切な対応ができた。また業務の効率化や改善を他部署に提案することができた
- (2) 明るく丁寧な対応で、安心・信頼頂ける窓口対応を行う
  - ・ 明るく丁寧な対応を心がけ取り組むことができた
- (3) 施設内外の環境整備・保存期間を意識した書類の管理
  - ・ テラスや花壇の手入れなど美化チェックできた
  - ・ 各事業所の書類整理ができておらず倉庫が乱雑になっている
  - ・ 保存と廃棄の見極めができていないため改善策を検討する必要がある

10. 入所・退所状況

特別養護老人ホーム入退所（定員29名）

年度	月	新規入所者				退所者					
		在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	計
令和5年度	4										
	5			1	1		2				2
	6			2	2					1	1
	7	1		1	2		1			1	2
	8						2				2
	9		1	1	2		1				1
	10	1			1		1				1
	11	1	1		2		1				1
	12									1	1
	1			1	1						
	2										
	3			1	1				1		1
	計		3	2	7	12		8		1	3

※ 能登地震被災者の方 : 女性1名1月被災地より入所。  
男性1名2月1.5避難所より入所、3月復興の為退所。

グループホーム入退所（定員18名）

年度	区分 月	新規入所者				退所者					
		在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	計
令和5年度	4	1		1	2		2				2
	5										
	6						1				1
	7										
	8		1		1						
	9		1		1		1				1
	10		2		2		2				2
	11										
	12										
	1										
	2										
	3		1		1		1				1
	計		1	5	1	7		7			7

※ 能登地震被災者の方：1月1.5避難所より福祉避難所として入所

グループホーム式番館入退所（定員18名）

年度	区分 月	新規入所者				退所者					
		在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	計
令和5年度	4	1			1		1				1
	5	1			1		1				1
	6							1			1
	7	1			1						
	8										
	9										
	10										
	11	1			1			1			1
	12										
	1	1			1		1				1
	2										
	3										
	計		5			5		3	2		5

※ 能登地震被災者の方：2月1.5避難所より入所、3月入院の為退所。

## 11. 事故発生状況（金沢市報告）

〔R5年4月1日 ～ R6年3月31日〕

部署	件数	内容	状況
特養	2	左膝下骨折	車椅子からベッドに移乗後、苦痛表情あり左足を擦るような仕草をされる。左膝蓋骨の右下内側に内出血と腫脹あり。金沢有松病院受診しレントゲンの結果、左頸骨骨折の診断で入院となる。
		左大腿部骨折	排泄後立ち上がろうとした際、介助した職員の手を振り払いポータブルトイレに勢いよく座られた。その後、左大腿部、膝辺りの痛みを訴え金沢有松病院受診。レントゲンの結果、骨、関節に異常なく、拘縮から来る痛みと診断を受けるも痛みが持続することから再度受診。左大腿部骨折と診断され、湿布と痛み止めで保存療法おこなう。
ショートステイ	1	頭部・膣の裂傷	夕方、フロア内を歩行中、後方に転倒。後頭部を机にぶつけ尻もちをつく。後頭部より出血、腰部・臀部の痛みあり。金沢有松病院に受診、頭部CTで異常無く、後頭部の処置後ショートステイに戻る。その日の夕方、排泄介助時にパットと便器に出血を認め、婦人科に受診。尻もちの際に出来たと思われる、会陰部に1cm程の亀裂ありそこからの出血と診断、軟膏を処方されショートステイで経過観察となる。家族より退所後の在宅支援が不安とのことで、数日間社会的入院となった。
小規模多機能			
デイサービス	2	擦過傷	ドライブに出かけ散策した後、車に向かう途中バランスを崩し転倒され、右上下肢、右手背、右手首、右肘に皮剥けと出血あり、施設に戻り看護師が応急処置し、その後受診された。
		左大腿骨頸上骨折	浴室から脱衣場へ移動中足が滑ってしりもちをつく形で転倒した。外傷は無かったが、左膝に痛みの訴えあり、受診され骨折との診断。
グループホーム	4	右大腿部骨折	訪室時に居室にて転倒しているのを発見、金沢有松病院へ救急搬送する。レントゲンの結果、右大腿骨骨折と診断され入院となる。12日後に退院しGHへ戻られる。
		転倒	早朝に、ベッドサイドに座り込んでいるのを発見する。転倒直後は、痛みの訴えなく、そのまま経過観察する。徐々に痛みが強くなり金沢有松病院受診、尾骨骨折と診断される。湿布とコルナールが処方され、GHへ戻られる。
		右肋骨骨折	夜間大きな物音あり訪室すると、右横向きに転倒していた。右肋骨の痛みあり、SPO2低下もあり、緊急搬送する。CTにて右肋骨骨折、気胸、血胸あり。入院となる。
		圧迫骨折	フロアで転倒、後頭部を打撲し、金沢有松病院受診。CTの結果、第2腰椎圧迫骨折と診断を受ける。痛みが持続するため、追加でMRIの指示あり入院となる。退院日に誤嚥性肺炎を発症し退院が延期、その後一旦退所となったが、回復され再度GHに入所される。
グループホーム式番館	7	新型コロナ感染症	職員9名、入居者14名新型コロナ感染。内入居者1名の方はSPO2低下し入院、20日後退院されGHに戻られた。
		頭部裂傷	起床時洗面所に行こうとして転倒。前頭部裂傷。ひどく出血、意識レベル低下の為、救急搬送する。CT異常なく、前頭部縫合。様子を見るためと抜糸の為1週間入院となる。その後異常なくGHに戻られた。
		打撲	昼間、居間にてご自分のコップを持ち立ち上がったところバランスを崩し転倒。翌日腰の痛み強く受診するがレントゲンCT検査結果骨に異常なし。
		圧迫骨折	昼間、トイレから出ようとドアを開けると同時にバランスを崩し転倒。腰の痛み強く、起き上がれない。レントゲンCT検査結果、圧迫骨折の診断。コルセットを付けることとなる。
		左大腿部骨折	夜間トイレに行き居室に戻り、職員がベッドに誘導臥床して頂いたがその後ご自分で外を視ようと窓のところまで行き、転倒。左大腿部骨折で入院、手術されるため退居となる。
		右手中指骨折	夜間、ポータブルトイレ使用の為起き上がるが、滑って居室床に倒れているところを発見。右手中指付け根の腫れあり。検査結果右手中指骨折。シーネ固定となる。
		打撲	夕方、居間に行こうとされ、車いす横で転倒。左足付けの痛み強く受診する。レントゲンCT検査結果骨に異常なく。打撲でこのままようすをみることとなる。

12. 救急車搬送状況

年度	月	件数	部署	状況
令和	4	3	特別養護老人ホーム	発熱
			グループホーム	右大腿骨頸部骨折
			グループホーム	誤嚥性肺炎
	5	1	ショートステイ	発熱 嘔吐 下痢
	8	2	グループホーム式番館	頭部裂傷 意識レベル低下
			ショートステイ	肺炎 SP02低下
	10	3	特別養護老人ホーム	SP02低下
			グループホーム	SP02低下 血気胸
			ショートステイ	発熱
	11	1	特別養護老人ホーム	意識レベル低下
1	1	特別養護老人ホーム	発熱 SP02低下	
3	1	グループホーム式番館	SP02低下 心不全	
合計件数		12		

13. 職員の採用・退職の状況

[R5年4月1日 ~ R6年3月31日]

職種別	施設長	副施設長	事務員	直接処遇職員						栄養士	宿直	合計	
				生活相談員	介護職員	看護職員	機能訓練指導員	ケアマネ	小計				
令和	採用		1		7 (4)					8 (4)		8 (4)	
5	退職		1		11 (4)			1	13 (4)			13 (4)	
年度	3月末職員数	1	1	3 (1)	1	79 (16)	5 (1)	1	1	87 (27)	1	2 (2)	95 (20)

( )はパート等非常勤人数

14. 施設職員の研修状況

[R5年4月1日 ~ R6年3月31日]

	回数 (延べ人数)	
新人研修	1回 (4名)	感染・褥瘡 事故防止 各部署の概要と活動 身体拘束排除・プライバシー保護 など
職場外研修	36回 (58名)	石川県社会福祉協議会 福祉総合研修センター等の研修会・オンライン研修
職場内研修	14回 (231名)	水害時対応訓練 褥瘡発生予防について 食事介助について
		認知症のかたへの対応基本 事故防止について 緊急時対応
		高齢者施設における感染症対策 介護現場におけるカスタマーハラスメント
		事業所発表 (ADL向上について 多職種連携について)
外部講師研修会	8回 (111名)	新人接遇・接遇フォローアップ研修
		リーダーシップ研修